

事務事業名	押し花しおりづくり教室実施事業					☐ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連	
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
施策名	21	生涯学習の推進				所属係	図書館班	課長名	野本 立一
基本事業名	78	学習やスポーツへの参加機会の提供				担当者名	末永 舞	電話番号 (内線)	096-242-5555
予算科目	会計 01	款 10	項 05	目 08	事業	法令根拠	図書館法、文字活字文化振興法		
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 18 年度 ~) ↳ (年度 ~ 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業の内容)・・読書週間にともない、講師を呼んで押し花しおりづくりをする。作成したしおりは読書週間に図書館利用者へ配布。(業務の内容)・・押し花づくりの講師を依頼し、市民にしおりづくりの周知をする。参加者を募集し、読書週間前に押し花しおりづくりをする。作成したしおりは参加者および読書週間に図書館を利用した利用者へ配布する。 (予算の内訳)・・報酬、報償費、需用費(消耗品費)						総 費 入 量	事業費	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	0
							事業費計 (A)	0	
							正職員従事人数	0	
							延べ業務時間	0	
							人件費計 (B)	0	
						トータルコスト(A)+(B)		0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

- ・講師を呼び、参加者を市民から募集し、押し花しおり教室を開催した。
- ・作成したしおりは読書週間期間中、毎日貸出者先着30名へ配布した。

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

- ・18年度と同じ

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

- ・しおり作りは合志市民。しおりの配布対象は図書館利用者

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

- ・学習やスポーツに参加する機会がある

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

- ・学習・スポーツに親しむ機会があると思う市民の割合

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア しおり作り参加者数	人
イ しおり配布枚数	枚
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 読書期間中の西合志図書館利用者数	人
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア しおり作り参加者数	人
イ しおり配布枚数	枚
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア	
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

	単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22年度 (最終目標)
投入 費 入 量	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円						
	事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	0	0
	正職員従事人数	人			3	3	3	3
	延べ業務時間	時間			7	7	7	7
	人件費計 (B)	千円	0	0	28	28	28	28
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	28	28	28	28
活動指標	ア 人 イ 枚 ウ			10 500	15 700	15 700	15 700	15 700
対象指標	ア 人 イ ウ			10 450	15 500	15 500	15 500	15 500
成果指標	ア 人 イ 枚 ウ			3,100 450	3,100 500	3,100 500	3,100 500	3,100 500
上位成果指標	ア イ ウ							

事務事業名	押し花しおりづくり教室実施事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	-----------------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

・読書週間のイベントとして平成18年度より開始。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？

・18年度からの事業なので変化等は特にない。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

・しおりの作成手順としては、押し花を台紙に貼り、ラミネート加工をする作業だったため、しおりづくりの参加者からは押し花自体をつくることからしてみたいという声があった。・合志市外の図書館利用者からも参加したいという声があった。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 ・意図の読書および図書館に対する意識を高めることにより、結果の図書館来館者数の増加に結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 ・法により地方行政は文字・活字文化に係る公開講座の開設その他の地域における文字・活字文化の振興に貢献する活動を促進するため、必要な施策を講ずるよう努めるものとするとの「文字・活字文化振興法」に基づいた事業であるため、行政が行うのは妥当と思われる。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 適切である ⇒【理由】 ・西合志図書館でのみ製作・配布をしているが、配布の対象を図書館利用者とするならば、合志館・泉ヶ丘館でも配布をすべきと考えられるため、検討が必要。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 ・しおりの作成枚数を増やせば、もっと多くの利用者にPRできるが予算(消耗品費)と手間がかかる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 ・読書週間に読書に対する意識を高めるための事業として、廃止する場合は他の案を考えるべきである。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒【理由】(具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ・読書週間の行事としては他にないため、連携はできない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・押し花の材料・道具などは全て講師の先生に用意してもらっている。最低限の費用で行っているため、削減の余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・周知のためのポスター製作や講師の手配等以外は、当日まで手間はとらない。業務時間の削減は難しい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】 ・しおり配布対象を西合志館以外でも実施すれば、より公平となるため、検討が必要。

合志市

事務事業名	押し花しおりづくり教室実施事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	-----------------	-----	-------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

- ・目的妥当性については、西合志図書館でのみ製作・配布をしているが、配布の対象を図書館利用者とするならば、合志館・泉ヶ丘館でも配布をすべきと考えられるため、検討が必要である。
- ・公平性については、しおり配布対象を西合志館以外でも実施すれば、より公平となるため、検討が必要である。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☒ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

・現在、読書週間の事業として行っているが、今後合志館とも話し合い、他の事業とあわせておこなうのか、このままのやり方でいくのか検討が必要。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	×
	低下		×	×

(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項